

どうなる
就職
Part.1

うまくいく人と苦しむ人は、どこが違う？

高校・大学で身につけたいのはこんな力

子どもの進路を考えていくと、やはり気がかりなのが将来の就職。これからの社会で活躍するにはどんな力が必要なのか？ 就職最前線の事情から実態を探っていきましょう。

取材文／伊藤敬太郎
イラスト／桔川伸

就活の常識を疑う

就職活動をめぐる状況はここ数年でも大きく変化。ただ、どう変わったかについては実態が理解されていない部分もあるようです。リクナビ・岡崎仁美編集長に、「ありがたい誤解」について聞きました。



リクルート
『リクナビ』編集長
岡崎仁美

リクルート入社以来、一貫して人材採用事業に携わる。転職情報サイト『リクナビNEXT』編集長を経て、就職情報サイト『リクナビ』編集長に。就活に関して学生と企業両方の事情に詳しい。

常識.1

常識

企業は不景気であつてないほど
新卒採用数を絞っている

事実

従業員1000人以上の企業の
大卒求人数は96、97年卒の倍以上

ニュースなどで「50社応募しても内定ゼロ」といった話題を頻繁に耳にしていると、昔と比べて企業がかなり求人数を絞っているのだろうと考えがち。

しかし、下のグラフをみてください。従業員1000人以上の企業の大卒求人数をみると、2013年卒は15万6400人。1996、97年卒あたりと比較すると求人数は倍以上となっています。4～5年単位で見れば確かに減ってはいますが、かつての就職氷河期と比べれば遙かに多いというのが事実。また、中小企業も含めた全体の求人

倍率は1倍を超えているので仕事がないわけではないのです。

「97年卒ごろから企業の採用が大卒中心となり、同時に就職協定の廃止、インターネットの普及も重なって就職のあり方が大きく変化しました。大学生を採用する企業が多様化し、一方で大学進学率も上昇。インターネットで情報収集はしやすくなりましたが、それでも学生は大手にエントリーする傾向が強く、一部の企業に応募が殺到。多対多のマッチングがうまくいっていないというのが今の状況なのです」(岡崎編集長)

■ 従業員1000人以上の企業の求人数・求人倍率推移



出所／『大卒求人倍率調査』株式会社リクルートホールディングス リクルートワークス研究所 <http://www.works-i.com>

常識.2

常識

エントリーシートには
ボランティア経験の二つも書かないと！

事実

企業は経験などの種類や数ではなく、
それを通して得たものに興味がある

最近では、「ウチの子、もうすぐ就職活動なのにボランティアにも行ったことなくて…」と心配する保護者も多いですが、行けばいいという考えは誤り。「学生はボランティア、留学、資格、英語といったWHATのカードをそろえよう」とします。しかし、企業はカードの奇抜

さや数をみているわけではありません。重視しているのはWHY(なぜ、したのか)。もっと大事なのがSO WHAT?(それで、あなたは何を感じ、何を学び、どうしたいと考えているの?)。目的や成果のみえないカードをいくら並べてもアピール効果は薄いです(同)

常識.3

常識

就活で成功するのは
やっぱり高学歴の優等生である

事実

企業は多様な人材を求めており、
今や決まったタイプというものはない

保護者世代が大学生だった当時は、高学歴で大学の成績もそこそこ優秀であればそれなりの就職はできていたはず。しかし、今や偏差値上位大学だから内定が得られるとは限らない時代。変化の時代だけに改革者タイプのニーズは高いですが、これも二面的なとらえ方は危険。

「改革者タイプにしても、すべての企業・職種で求められているわけではない。今は企業もこの先どんな人材が必要になるかつかめていないので、できるだけ多様な人材を採る傾向が強くなっています。どの企業も求めるつのタイプというのではないです(同)」

常識.4

常識

就職は一生を左右する。
安定した大手企業にこだわるべき

事実

重要なのはマッチング。
自分に合った企業を探すべき

先行き不透明な時代だからこそ、なかでもそう簡単には潰れないだろう大手企業へ…と考える保護者も多いかもしれませんが、大手企業といえども、合併、リストラ、分社化、早期退職の実施といった動きは活発で、社内では昇進給与の格差も顕著になっています。能

力が発揮できなければ、大手でも安心はできない時代になっているのです。「結局、人が一番頑張れるのは、自分の強みが生かせる、自分に合った環境なのではないでしょうか。そういう会社で力をつけていくことが、この先は特に重要になってきますね(同)」

常識.5

常識

就活は受験と同じ。
傾向と対策で乗り切れるはず！

事実

就活はコミュニケーション。
お互いに心を通わせることがポイント

エントリーシートはどう書くのが正解なの…?面接での100点満点の受け答えとは…?学生も保護者も、ついそれまでの習慣で就活を受験のように考えてしまいがちです。「就職はオーディションではなく、コミュニケーションです。恋愛をイメージしてもら

えればわかりやすいと思います。大事なのは、その会社に対して自分自身がときめいたり感動したりすること。そして、その気持ちを相手に伝えることで、お互いに心を通わせることです。当然、相性もあります。テクニックだけで乗り切れるものではないです(同)」

海外ボランティアではメンバーのまとめ役に

「実際に現場で体験したい」という思いから、短期の海外ボランティアに取り組み始める科目を選択。1年の夏休みにクラスのメンバーと東南アジアでのボランティアを経験。予備知識があったものの、現地の貧困層の子どもたちと実際に接し、自分たちの日本での生活との違いにショックを受け、「何かしなければ」という気持ちを強める。行動的なタイプでもあり、率先して動くうちに現地では自然とクラスのメンバーのまとめ役になった。

やりたいことを軸に学部・学科を選択

演劇部での経験から、「人の役に立つこと」の喜びと「いろいろな人と触れ合うこと」の楽しさを感じたので、進学先はその観点から選択。日本の外に出ているいろいろな人と触れ合い、貢献することができそうだとその思いから、国際交流、国際貢献が学べる学部・学科に絞って進路を選択。成績は良かったので親や先生からは、より偏差値上位の大学の他学部・学科も勧められたが、自分のやりたいことをしっかり説明して納得してもらった。

演劇部の活動を通して地域社会と交流

演劇部に所属。メンバーが少ない演劇部を盛り上げるため、OB・OGとも積極的に交流し、アドバイスや指導を求めた。2年の後半になると、いろいろな人に観てもらいたいと、地域の福祉施設などでのボランティア公演を仲間と一緒に企画。最初は子どもたちが集中して観てくれないなど失敗もあったが、毎回反省点を修正し、仲間を引っ張ってクオリティを上げていった。この経験を通して、学校の外の地域や社会に視点が広がった。



A子さん
公立W高校
→私立X大学国際学部
明るく元気でバイタリティあり。こうと思ったらとことん突き進むタイプ

就職活動に成功したAさんと失敗したBさん、その違いは？

B子さん
私立Y高校
→私立Z大学社会学部
性格は温厚で素直。誰とでも仲良くでき、人と揉めたりすることが嫌い



大学時代(前期)



進路選択



高校時代



勉強はあまりおもしろいとは感じなかったが、授業にはまじめに出席。1年の夏休みには、親の勧めもあって大学の短期留学プログラム(2週間)に参加。現地では思っていたほど自分の英語が通じず、自然と日本人の友達同士で行動することが多かった。しかし、本人としては旅行以外での初めての海外経験で、「留学した」という事実になんにも満足。

文理選択では、数学も国語も得意だったので迷ったが、友達から「文系のほうが大学受験のとき楽だよ」という話を聞き、あまり深く考えずに文系を選択。就職についてはまだ明確な目標はなかったので、選択肢が広そうなイメージがある経済、経営、社会、国際系の学部・学科を中心に幅広く受験。無事、偏差値上位の志望大学の社会学部に合格できた。

高校の中でもメジャーだったテニス部に所属。人数が多い部活だったので友達は増えた。もともとテニスに興味があったわけではなかったが、やっているうちにそこそこ好きになり、部活も楽しんだ。ただし、レギュラーにはなれなかったこともあり、仲の良かった友達と一緒に2年の終わりに部活は引退。3年になってからは受験勉強に専念した。

勉強はあまりおもしろいとは感じなかったが、授業にはまじめに出席。1年の夏休みには、親の勧めもあって大学の短期留学プログラム(2週間)に参加。現地では思っていたほど自分の英語が通じず、自然と日本人の友達同士で行動することが多かった。しかし、本人としては旅行以外での初めての海外経験で、「留学した」という事実になんにも満足。

文理選択では、数学も国語も得意だったので迷ったが、友達から「文系のほうが大学受験のとき楽だよ」という話を聞き、あまり深く考えずに文系を選択。就職についてはまだ明確な目標はなかったので、選択肢が広そうなイメージがある経済、経営、社会、国際系の学部・学科を中心に幅広く受験。無事、偏差値上位の志望大学の社会学部に合格できた。

高校の中でもメジャーだったテニス部に所属。人数が多い部活だったので友達は増えた。もともとテニスに興味があったわけではなかったが、やっているうちにそこそこ好きになり、部活も楽しんだ。ただし、レギュラーにはなれなかったこともあり、仲の良かった友達と一緒に2年の終わりに部活は引退。3年になってからは受験勉強に専念した。

高校・大学でやっておくべきことは？

同じような経験をしていても成長に差が出る理由とは？

高校・大学で身につけたい 4つの力

その1

主体的に選び行動する力

自分の考えに基づいて自分で決めて行動する経験を重ねることで、子どもは自分の軸を形成していきます。そのために、保護者ができることは先回りして目標を与えるのではなく、子ども自身に目標を考えさせること。「進路選択や就活にしてもそう。いろいろなアドバイスはするにせよ、最後は自分で決めさせるというスタンスが大切ですよ」(岡崎編集長)。

その2

“供給者”側の視点で見る力

今の若者は消費者としての視点は成熟していますが、社会人に必要なのは、社会に対して自分は何ができるのかという供給者の視点。この視点から世の中の仕組みを理解することも大切です。「実は自営業の家庭の子どもはこの視点をもっていることが多いんです。会員の家庭でも、子どもに対してもっと仕事の話をするといいと思いますね」(同)。

その3

お互いの心を通わせるコミュニケーション力

社会で重要になるのは、世代や考え方の違う人たちと理解し合ったり、みんなで何かを生み出したりのための“お互いの心を通わせる”コミュニケーション力です。子どもが上の世代と交流する機会は積極的に作るべき。ちなみに親子の会話も世代や性別を超えたコミュニケーション。「母親と仲のいい男の子は就職がうまくいく傾向がありますね」(同)。

その4

PDSサイクルを回す力

PDSとは、計画(Plan)、実行(Do)、検証(See)のこと。PDSサイクルを踏まえて活動した経験は社会でも確実に役に立ちます。ただし、高校生の場合、Seeがなくやりっぱなしになることが多いもの。「子どもがボランティアなどに行ったら、『どうだった?』と声を掛け、経験を振り返る対話をしてください」(同)。

やりたいことができる 会社に絞って応募

大学生活を通して「やりたいこと」の方向性はほぼ定まった。NGOへの就職も考えたが、現地での活動や大学での研究を通して、途上国の経済発展には民間企業の進出が不可欠だと感じていたため、東南アジア進出に力を入れている企業への就職を視野に入れる。特に現地での雇用を生み出すメーカーに関心をもち、海外支援のCSR(企業の社会的責任)活動なども含めて企業研究。ビジョンと事業内容に共感できた企業に絞って応募。

大学での勉強と 課外活動がリンク

ボランティア経験後、問題意識が深まった。途上国での貧困の背景について大学の授業を通して理解を深めると同時に、自分にできることはどんなにしようと、クラスの仲間と大学内のボランティアサークルに参加。夏休みや冬休みを利用して定期的に東南アジアを訪問するようになり、現地での活動内容などに関しても積極的に提案。ゼミでは途上国の経済発展について研究し、コミュニケーションの必要性から語学力も磨いた。

内定ゲット!!

ボランティアで感じた、東南アジア各国の国民性の違いの話をしたら、面接担当者と話が合い、思わず盛り上がった。数日後に内定ゲット。



就職活動

大学時代(後期)



内定ゼロ...

書類はそつなくまとめたつもりなのに通過率が低い。面接まで進んでも、想定外の質問に口ごもることが何度も。結果、内定はゼロ...

就活には失敗しなくなかったので、周囲の友達が動き始めると同時に始動。自己分析や適性診断をするがピンと来ず。とりあえず、自分が好きな商品を作っているメーカーを第一志望に。また、友達の話に影響され、マスコミや金融なども受けることに。友達はおおむね大手志望だったこともあり、自分も負けたくない大手・人気企業中心に応募。

課外ではオールラウンドサークルに参加。サークル活動を通して友達はどんどん増え、人望もあったのでリーダーに就任。イベント計画はほぼ例年と同じで、副リーダーがしっかりしていたのでなんとかこなせた。就活対策のため、老人福祉施設でのボランティアにも参加。ただし、お年寄りとのコミュニケーションに戸惑っているうちに期間終了。

行かず、受け身で周りに流されている印象があります。

また、A子さんは、常に経験したことから何かを学んで、次の行動へとつながっています。それに対して、B子さんは、それぞれの活動が散発的で、あまり一貫性がありません。

結果、同じようなことをしていても2人の成長には大きな差が生まれてしまうことになるのです。

高校・大学を通してA子さんが獲得できて、B子さんが獲得できなかったものは左に挙げている「4つの力」。これらは企業が求めている力であると同時に、先行き不透明なこれからの社会で活躍する人材に必要とされる力ともいえます。

それぞれのような力でも、どうすれば磨くことができるのか、また、そのために保護者はどのようなサポートができるのかについても解説しているので参考にしてください。